

佐賀県産水草目録

岩村 政浩*

Seiko Iwamura: A checklist of aquatic macrophytes
in Saga Prefecture, Kyushu, Japan

佐賀県は九州の北西部に位置し、北の玄界灘ならびに南の有明海に注ぐ多くの河川とそれにつながる多数の用水路、平地から山間に広がる水田や大小のため池、そして佐賀平野特有の総延長約2,600kmに及ぶ全国一のクリークなど多様な水辺環境に恵まれている。それだけに水辺の生物相も豊かであるが、そのうちの水草に関しては過去の記録(馬場, 1964, 1981)を参考にして「佐賀県産水草目録(仮)」がまとめられている(岩村, 1996)。さらにこの仮目録の追加種(岩村, 1998)や佐賀県で絶滅が危惧される水草についての報告がある(岩村, 1999)。

しかし、その後の調査でいくつかの県新産種や県内希少種の新産地を確認した。その他水草に関する貴重な報告もなされている(上赤ら, 1999, 2000)。一方、現状不明種の中で、絶滅したと思われるもの、誤認に基づくと思われるものなどが明らかになっている。

そこで、これらの成果や新しい知見を従来の報告(岩村, 1996, 1998など)に盛り込み、ここに佐賀県産水草目録としてまとめることにした。なお、このリストに記した水草の範囲及び配列は、角野(1994, 1997)にはほぼ準拠し、これまでに佐賀県で生育が確認されている種は全て含まれる。その総数は134種類に及びそのうち帰化、逸出等は14種である。これら全種類の中で絶滅種?を除き、他はすべて「せいこう植物標本」として整理し、その一部は県立宇宙科学館に所蔵してある。

目録に先立って、主な県内水草の現状をまとめておく。

1. 佐賀県新産種

『佐賀県生物誌植物篇』(馬場, 1964)及び『佐賀県植物目録』(馬場, 1981)に記されていない県新産の水草は、これまで26種類が記録されている(岩村, 1996, 1998)。ここでは、それ以降に発見されたものを記録する(帰化、逸出は除く)。[]内は1/25,000地形図の図幅名、()内は岩村の標本番号である。

○セトヤナギスブタ：巖木町星領 [相知]、標高(以下同様)620m、水田・溝、2000.9.2 (No.12064); 富士町市川 [古湯]、530m、水田・溝、2000.10.5 (No.12089)

1年生の沈水植物。ヤナギスブタに似るが、やや大形で種子は長さ約2mm、表面に低い隆起が少数ある。

○ツツイトモ：伊万里市黒川町 [今福]、2m、ため池、2000.8.1 (No.12033)

繊細な沈水植物。イトモに似るが、柔らかな托葉が筒状になる。殖芽は極めて細く、長さ1~1.5cm。

○カワツルモ：伊万里市黒川町 [今福]、2m、汽水域の池、2000.7.4 (No.12020); 鎮西町野元 [呼子]、2m、汽水域の水路、2000.8.1 (No.12030); 伊万里市波多津町 [今福]、0.5m、汽水域の池、

*〒840-0851 佐賀市天祐1-15-21

2000.8.16 (No.12052)

多年生の沈水植物。一見、リュウノヒゲモに似るが、葉縁に鋸歯がある。

○サガミトリゲモ：伊万里市黒川町 [今福]，2 m，ため池，2000.8.1 (No.12034)

1年生の沈水植物。葉鞘の先は円く突き出ない。種子は長楕円形の3 mm内外で表面の網目は普通四角形。

○クロハリイ：有田町白川 [有田]，100 m，岩石の多い浅い川，2000.8.24 (No.12062)

多年生の抽水植物。稈は細く1 mm前後，穂は濃い紫褐色で先はやや尖る。

2. 希少種の産地追加，減少

産地追加

○シナミズニラ：相知町坊中 [徳須恵]，50 m，ため池，1999.10.18 (No.11052)；嬉野町焼山 [嬉野]，100 m，ため池，1999.10.21 (No.11062)

○オオアカウキクサ：佐賀市高木瀬 [佐賀北部]，8 m，クリーク，2000.5.6 (No.12004)

○ウミヒルモ：伊万里市黒川町福田 [今福]，海岸砂地，2000.8.1 (No.12035)

多年生の沈水海草。大潮の干潮時に全体が露出する。

○イトモ：富士町古場 [雷山]，410 m，池沼，2000.9.15 (No.12072)

○コアマモ：鎮西町潟 [呼子]，海岸砂泥地，2000.6.2 (No.12005)；肥前町杉野浦 [今福]，海岸砂地，2000.7.4 (No.12015)；伊万里市黒川町福田 [今福]，海岸砂地，2000.7.4 (No.12016)

コアマモは潮間帯下部のアマモ群落に隣接する。また前記ウミヒルモの小群落が，このコアマモ群落内に混生し，3種の海草が同時に見られるユニークな生育地 (図1)。

○エビアマモ：唐津市湊 [呼子]，潮間帯下部岩礁，2000.5.5 (No.12003)

根茎が岩に固着した多年生の沈水海草。葉の基部は黒褐色の繊維となる。5月頃，エビ状に曲がっ

た総苞内に肉穂花序をつくる。

○イトトリゲモ：伊万里市黒川町 [今福]，2 m，水田・溝，2000.10.6 (No.12095)

○ウキヤガラ：鎮西町野元 [呼子]，2 m，水路，2000.7.3 (No.12012)；伊万里市煤屋 [今福]，1 m，湿地，2000.7.25 (No.12028)；伊万里市浦潟 [今福]，3 m，水路，2000.8.1 (No.12031)

○チャボイ：伊万里市波多津町 [今福]，0.5 m，汽水域の池，2000.8.16 (No.12053)

マツバイに似るが，茎はやわらかく，極細の匍枝の先に小塊茎をつくる。

○シズイ：嬉野町陣野 [彼杵]，250 m，ため池，2000.8.12 (No.12050)

これまで，檜原湿原に限られていたので，ここが県内第二番目の生育地。群落の規模は檜原湿原よりはるかに大きい。

○サイジョウコウホネ：伊万里市松浦町 [伊万里]，60 m，ため池，2000.5.19 (No.12008)

○ゴハリマツモ：伊万里市早里 [楠久]，5 m，クリーク，2000.10.6 (No.12091)

○ミズスギナ：嬉野町陣野 [彼杵]，250 m，ため池，2000.7.2 (No.12010)

○アサザ：鹿島市常広 [鹿島・牛屋]，2 m，水路，2000.9.12 (No.12071)

○ヒシモドキ：北茂安町千栗 [久留米西部]，6 m，川，2000.8.9 (No.12047)

分布域は北茂安町から鳥栖市三島町にわたる。数ヶ所で群生する (上赤・松本，2000)。

産地減少 (消失など)

○ウキシバ：北方町焼米。ため池改修工事により激減し，現在，辛うじて残った僅かな個体がほそほと生き延びている。

○オニバス：佐賀市牟田寄。圃場整備工事で，かつてのクリークはなくなり，オニバス群落は消失した。

○ミズスギナ：嬉野町大野原。ため池改修工事により消滅寸前であったが，ついに消えた。

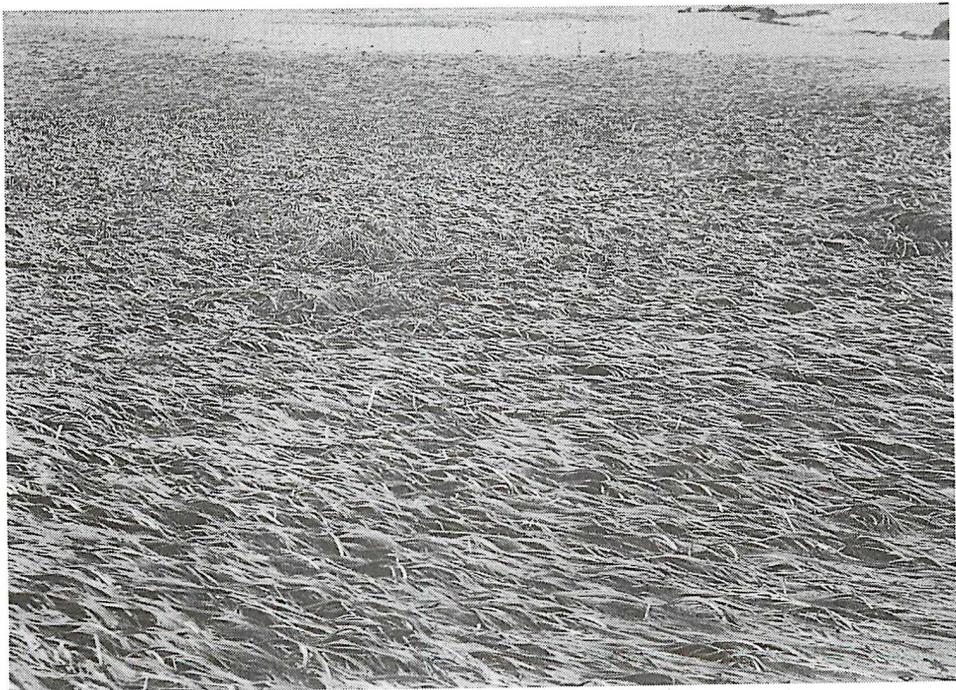


図1. 肥前町星賀海岸（大ヶ崎北側の入江）。道路工事のため、コアマモとアマモ（図では冠水）の群生地に「土砂が流れ込むおそれがある」と心配されたが、県の素早い対応策で、沈でん池をつくることになった（上）。

コアマモは干潮のときは、一般に露出するが、これに接続するアマモ群落（手前）は潮間帯下部に生育するので、顔を出すのは潮位が最も低い大潮の干潮時に限られる（下）。

○ミカワタヌキモ：大和町小川（大和団地）．道路工事で、ため池の南側の一部が埋められ、個体数が激減しマット状は見られない．かつて水面上を黄色く染めたノタヌキモ、イヌタヌキモは消失、現在、ハスが優占し、その隙間にフサジュンサイ、ホテイアオイが広がる．

○ヒシモドキとデンジソウ：1998年12月中旬、佐賀市鍋島町森田で河川工事によりヒシモドキの群生地の半分弱が消えた．翌1999年1月下旬には大和町上戸田で道路工事のため、デンジソウの自生地が消滅状態になった．しかし、佐賀自然史研究会会員たちの機転と熱意そして報道関係者の自然への強い関心と執念が、行政の対応を迅速に前進させた．

ヒシモドキは一部移植され、生育は順調．工事を免れた水路には今年も群生し、周辺の水路にも広がりを見せている．また、ほんの一握りからスタートしたデンジソウも今では見事に復元している．

このヒシモドキ、デンジソウの連続騒動（上赤、1999）を契機に、県は素早く希少生物の情報を収集、整理し、市町村などに対して、生態系に配慮して工事を実施するよう通知した．さらに環境企画課は2000年から各種工事計画と希少生物との関わりを検討し、場合によっては専門家と共に現地でチェックするなど、生物多様性の保全対策に積極的に乗り出している．それだけに私たちは、的確な情報をより早く提供すべきである．

3. 検討を要する種など

○コバノヒルムシロ：かつての生育地とされる浜玉、肥前、北方、嬉野の各町（馬場、1981）の主なため池を調査したが、佐賀県植物目録にはない近似種のホソバミズヒキモだけで、コバノヒルムシロは全く確認できなかった．また上記産地のコバノヒルムシロの標本（県立宇宙科学館所蔵）は、どれも果実の突起が極めて低く、すべてホソバミズヒキモであることが判明した．つまり、コバノヒルムシロはおそらく誤認に基づくものと思われる．

そのため、この度のリストからは除外した．

○アイノコイトモ：佐賀市高木瀬東産．本種は通常のアイノコイトモとは異なる新しいタイプということで、アイノコイトモの一型（角野私信）として取り上げた．今後、検討を要する種である（岩村、1999）．現在、これと類似のものが、市内の水路で容易に見られる．

○オオミズヒキモ：佐賀県植物目録（馬場、1981）には「*P. × kamogawaensis* Miki オオミズヒキモ、佐賀市、（山下、1969.8）、稀」と記されている．生育場所の詳細はわからないが、私が確認した佐賀市神野西産のものはオオミズヒキモに近い（角野私信）ということで、仮にオオミズヒキモとして取り上げた（岩村、1999）．要検討の種である．

4. 県内絶滅と思われる種

○トリゲモ：水田・沼沢各地普通（馬場、1964）

○ミズアオイ：沼沢、佐賀市稍稀（馬場、1964）

○ヌマハリイ：沼沢・湿地、黒髪山（山下）稀？（馬場、1964）

上記3種は何れも標本がなく、その後、30数年以上、県内の生育は確認されていない．

標本を同定いただいた元鹿児島大学の初島住彦先生、神戸大学角野康郎先生、熊本大学高宮正之先生に厚くお礼を申し上げます．

引用文献

馬場胤義（編）、1964．佐賀県生物誌植物篇．佐賀県理科教育振興会・佐賀県理科教育協会．

馬場胤義（編）、1981．佐賀県植物目録．佐賀植物友の会．

岩村政浩、1996．佐賀県産水草目録（仮）．佐賀の植物 32:31-37．

岩村政浩、1998．佐賀県産水草目録（仮）に21種を追加する．佐賀の植物 34:39-41．

岩村政浩、1999．佐賀県で絶滅が危惧される水生植物．佐賀自然史研究 5:33-44．

角野康郎、1994．日本水草図鑑．文一総合出版．

角野康郎, 1997. 兵庫県産水草目録(新). 水草研究会報 60:14-20.
 上赤博文, 1999. 佐賀県の「ヒシモドキ」と「デンジソウ」, 公共工事で消滅の危機. 水草研究会報 67:24-30.
 上赤博文, 2000. 佐賀平野東部で確認されたヒシモド

キの新産地. 佐賀自然史研究 6:17-18.
 環境庁(編), 2000. 改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8 植物I (維管束植物). 財団法人自然環境研究センター.
 高宮正之, 1999. ミズニラ属の自然誌と分類. 植物分類地理 50:101-138.

佐賀県産水草目録

[] 内はレッドデータブックカテゴリー (環境庁, 2000), *県内希少種

I. シダ植物

ミズニラ科

シナミズニラ [EN]*

Isoetes sinensis Palmer var. *sinensis*

ミズワラビ科

ミズワラビ

Ceratopteris thalictroides Brongn.

デンジソウ科

デンジソウ [VU]*

Marsilea quadrifolia L.

アカウキクサ科

アカウキクサ [VU]*

Azolla imbricata (Roxb.) Nakai

オオアカウキクサ [VU]*

A. japonica Fr. et Sav.

サンショウモ科

サンショウモ [VU]*

Salvinia natans Allioni

II. 種子植物

A. 単子葉類

オモダカ科

オモダカ

Sagittaria trifolia L.

クワイ

S. trifolia L. var. *edulis* (Sieb.) Ohwi

アギナシ*

S. aginashi (Makino) Makino

ウリカワ

S. pygmaea Miq.

ヘラオモダカ

Alisma canaliculatum (A. Br. et Bouche) Samuels.

トチカガミ科

ミズオオバコ

Ottelia alismoides (L.) Pers.

トチカガミ

Hydrocharis dubia Backer

スブタ [VU]*

Blyxa ceratosperma Maxim.

ヤナギスブタ*

B. japonica (Miq.) Maxim.

セトヤナギスブタ*

B. alternifolia (Miq.) Hartog

オオカナダモ

Egeria densa Planch.

クロモ

Hydrilla verticillata (L. f.) Royle

セキショウモ*

Vallisneria asiatica Miki

オオセキショウモ

V. gigantea Graebn.

ウミヒルモ [NT]*	<i>Najas marina</i> L.
<i>Halophila ovalis</i> (R. Br.) Hook. fil.	オオトリゲモ*
ヒルムシロ科	<i>N. oguraensis</i> Miki
フトヒルムシロ	トリゲモ (絶滅?) [EN]
<i>Potamogeton fryeri</i> A. Benn.	<i>N. minor</i> L.
ヒルムシロ	ホッスモ
<i>P. distinctus</i> A. Benn.	<i>N. graminea</i> Del.
オヒルムシロ*	イトトリゲモ [EN]*
<i>P. natans</i> L.	<i>N. japonica</i> Nakai
ホソバミズヒキモ	サガミトリゲモ [EN]*
<i>P. octandrus</i> Poir.	<i>N. foveolata</i> A. Br.
ササバモ*	ミズアオイ科
<i>P. malaianus</i> Miq.	ミズアオイ (絶滅?) [VU]
エビモ	<i>Monochoria korsakowii</i> Regel et Maack.
<i>P. crispus</i> L.	コナギ
ヤナギモ	<i>M. vaginalis</i> (Burm. fil.) Presl.
<i>P. oxyphyllus</i> Miq.	ホテイアオイ
センニンモ	<i>Eichhornia crassipes</i> Soims.-Laub.
<i>P. maackianus</i> A. Benn.	アヤメ科
イトモ [VU]*	キショウブ
<i>P. pusillus</i> L.	<i>Iris pseudacorus</i> L.
ツツイトモ [CR]*	ツユクサ科
<i>P. panormitanus</i> Biv.	イボクサ
アイノコイトモ (一型)*	<i>Murdannia keisak</i> (Hassk.) Hand.-Mzt.
<i>P. orientalis</i> Hagstr.	イネ科
オオミズヒキモ (仮) [EN]*	ヨシ
cf. <i>P. kamogawaensis</i> Miki	<i>Phragmites australis</i> Steud. ex Trin.
カワツルモ [EN]*	ツルヨシ
<i>Ruppia maritima</i> L.	<i>P. japonica</i> Steud.
アマモ科	マコモ
アマモ	<i>Zizania latifolia</i> Turcz.
<i>Zostera marina</i> L.	キシユウスズメノヒエ
コアマモ [DD]*	<i>Paspalum distichum</i> L.
<i>Z. japonica</i> Aschers. et Graebn.	チクゴスズメノヒエ
エビアマモ [NT]*	<i>P. distichum</i> L. var. <i>indutum</i> Shin.
<i>Phyllospadix japonicus</i> Makino	ウキシバ
イバラモ科	<i>Pseudoraphis ukishiba</i> Ohwi
イバラモ*	アシカキ

- | | |
|---|--|
| <i>Leersia japonica</i> Makino | <i>T. angustifolia</i> L. |
| ウキガヤ | コガマ* |
| <i>Glyceria depauperata</i> Ohwi | <i>T. orientalis</i> Presl. |
| ムツオレグサ | カヤツリグサ科 |
| <i>G. acutiflora</i> Torrey | カサスゲ |
| サトイモ科 | <i>Carex dispalata</i> Boott |
| シヨウブ | クログワイ |
| <i>Acorus calamus</i> L. | <i>Eleocharis kuroguwai</i> Ohwi |
| セキシヨウ | シログワイ* |
| <i>A. gramineus</i> Solander | <i>E. dulcis</i> (Burm. f.) Trin. |
| ボタンウキクサ | ヌマハリイ (絶滅?) |
| <i>Pistia stratiotes</i> L. | <i>E. mamillata</i> Lindb. fil. |
| ウキクサ科 | マツバイ |
| ウキクサ | <i>E. acicularis</i> (L.) Roem. et Schult. var. |
| <i>Spirodela polyrhiza</i> (L.) Schleid. | <i>longiseta</i> Svenson |
| ヒメウキクサ | ハリイ |
| <i>S. punctata</i> (G.F.W.) Thompson | <i>E. congesta</i> D. Don |
| アオウキクサ | ヤリハリイ |
| <i>Lemna aoukikusa</i> Beppu et Murata | <i>E. congesta</i> D. Don var. <i>subvivipara</i> |
| ナンゴクアオウキクサ | (Bockler) T. Koyama |
| <i>L. aequinoctialis</i> Welw. | クロハリイ* |
| ムラサキコウキクサ | <i>E. kamtschatica</i> Komarov |
| <i>L. japonica</i> Landolt | チャボイ [VU]* |
| ヒナウキクサ | <i>E. parvula</i> (Roem. et Schult.) Link |
| <i>L. miniscula</i> Herter | フトイ |
| ミジンコウキクサ | <i>Scirpus tabernaemontani</i> Gmel. |
| <i>Wolffia globosa</i> (Roxb.) Hartog et Plas | ウキヤガラ* |
| ミクリ科 | <i>S. fluviatilis</i> (Torr.) A. Gray |
| ヤマトミクリ [VU]* | コウキヤガラ |
| <i>Sparganium fallax</i> Graebn. | <i>S. planiculmis</i> Fr. Schm. |
| ナガエミクリ [NT]* | イセウキヤガラ |
| <i>S. japonicum</i> Rothert | <i>S. iseensis</i> T.Koyama et T.Shimizu |
| ヒメミクリ [VU]* | サンカタイ |
| <i>S. stenophyllum</i> Maxim. | <i>S. triqueter</i> L. |
| ガマ科 | カンガレイ |
| ガマ | <i>S. triangulatus</i> Roxb. |
| <i>Typha latifolia</i> L. | ホタルイ |
| ヒメガマ | <i>S. juncoides</i> Roxb. subsp. <i>Hotarui</i> (Ohwi) |

T. Koyama	オニバス
イヌホタルイ	<i>Euryale ferox</i> Salisb.
<i>S. juncoides</i> Roxb. subsp. <i>juncoides</i>	ハス科
タイワンヤマイ	ハス
<i>S. wallichii</i> Nees	<i>Nelumbo nucifera</i> Gaertner
サンカクホタルイ	マツモ科
<i>S.</i> × <i>trapezoideus</i> Koidz.	マツモ
アイノコカンガレイ	<i>Ceratophyllum demersum</i> L.
<i>S.</i> × <i>uzenensis</i> Ohwi ex T.Koyama	ゴハリマツモ*
ヒメホタルイ	<i>C. demersum</i> L. var. <i>quadrifidum</i> Makino
<i>S. lineolatus</i> Fr. et Sav.	ミソハギ科
シズイ*	ミズスギナ [EN]*
<i>S. nipponicus</i> Makino	<i>Rotala hippuris</i> Makino
ネビキグサ (アンペライ)	アブラナ科
<i>Machaerina rubiginosa</i> (Spr.) T. Koyama	オランダガラシ
	<i>Nasturtium officinale</i> R. Br.
B. 双子葉類	ミゾハコベ科
ヒユ科	ミゾハコベ
ナガエツルノゲイトウ	<i>Elatine triandra</i> Schk.
<i>Alternanthera philoxeroides</i> (Mart.)	ヒシ科
Griesb.	ヒシ
スイレン科	<i>Trapa japonica</i> Flerov
フサジュンサイ (ハゴロモモ)	コオニビシ*
<i>Cabomba caroliniana</i> A. Gray	<i>T. natans</i> L. var. <i>pumila</i> Nakano
ジュンサイ	オニビシ
<i>Brasenia schreberi</i> J. F. Gmel.	<i>T. natans</i> L. var. <i>japonica</i> Nakai
コウホネ	ヒメビシ [VU]*
<i>Nuphar japonicum</i> DC.	<i>T. incisa</i> Sieb. et Zucc.
サイジョウコウホネ*	トウビシ
<i>N. japonicum</i> DC. var. <i>saijoense</i> Shimoda	<i>T. bispinosa</i> Roxb.
ヒメコウホネ [VU]*	ツノナシビシ
<i>N. subintegerrimum</i> (Casp.) Makino	<i>T. acornis</i> Nakano
オグラコウホネ [VU]*	アカバナ科
<i>N. oguraense</i> Miki	ミズユキノシタ
ベニオグラコウホネ,*	<i>Ludwigia ovalis</i> Miq.
<i>N. oguraense</i> Miki var. <i>akiense</i> Shimoda	アリノトウグサ科
ヒツジグサ	フサモ
<i>Nymphaea tetragona</i> Georgi	<i>Myriophyllum verticillatum</i> L.

ホザキノフサモ
M. spicatum L.
 オオフサモ
M. aquaticum (Velloso) Verdcourt
 ミツガシワ科
 アサザ [VU]*
Nymphoides peltata (Gmel.) O.Kuntze
 ガガブタ [VU]*
N. indica (L.) O. Kuntze
 ミツガシワ*
Menyanthes trifoliata L.
 アワゴケ科
 ミズハコベ
Callitriche verna L.
 ゴマノハグサ科
 キクモ
Limnophila sessiliflora Blume

ウキアゼナ
Bacopa rotundifolia (Michx.) Wettstein
 ヒシモドキ科
 ヒシモドキ [CR]*
Trapella sinensis Oliver
 タヌキモ科
 タヌキモ [VU]*
Utricularia vulgaris L. var. *japonica*
 (Makino) Tamura
 イヌタヌキモ
U. australis R. Br.
 ノタヌキモ*
U. aurea Lour.
 ヒメタヌキモ [VU]*
U. minor L.
 ミカワタヌキモ [EN]*
U. exoleta R. Br.

○『広島市の生物—まもりたい生命の営み—』

(広島市環境局環境企画課発行, 2000年3月, A4版 307p., 非売品)

広島市のレッドデータブックということであるが、単に絶滅危惧種をリストアップするにとどまらず、今後の野生生物の保護に資するようにさまざまな工夫がある。文献・標本などの基礎資料と現地調査に基づいて広島市野生生物目録を整理し、それらの種の近年の生育・生息情報からこの「レッドデータブック」に登載する種を選定している。絶滅のおそれのある種だけでなく、特異な環境や二次的自然を維持する上で注目すべき「環境指標種」が選定され、その選定の作業プロセス(基準)も明快である。

本書の対象は植物、動物とも広範な分類群にわたるが、種子植物とシダ植物に限ると同市に産する2,288種のうち「絶滅」もしくは「絶滅のおそれのあるもの」として選定されたのは86種(3.8%)と、きわめて絞り込んだものとなってい

る。これらの種については生育地や現状について半ページをとって簡単な解説と市内の分布図が付されている(但し、分布については「種の保護のために公表しません」という扱いになっている種が多い)。絶滅種10種のうち5種までが水草(カワツルモ、イトクズモ、ミズワラビ、デンジソウ、サンショウモ)であるのをみると、ここでも水域や湿地の植物が危機的状況にさらされてきたことがわかる。

巻頭には31枚のカラーグラビア、後半には「地域の自然」として里山や塩湿地などの現状や保全の考え方をまとめている。また各所にはさまれた多くのコラムが、内容のある読み物になっている。このコラムを含め、本書をまとめた方々の考え方が生かされた内容になっていることを評価するとともに、基礎資料が比較的充実していた地域とはいえ、短期間でこれだけのものをまとめられた「生物調査団」の皆さんに敬意を表したい。

(角野康郎)